

## 中野区教育ビジョン（第3次）の評価と今後の取組について

### 【目標Ⅰ】人格形成の基礎となる幼児期の教育が充実し、子どもたちがすくすくと育っている

#### （1）現行ビジョンにおける取組の柱

- 就学前教育の充実
- 家庭の教育力向上へ向けた支援
- 幼児期の特別支援教育の充実

#### （2）成果指標

成果指標	幼児の発達をとらえた意図的・計画的な指導を行っていると感じている保護者の割合	策定時 (H27)	指標結果					目標	
			H29	H30	H31	R2	R3	R2	R7
		—	96.5%	96.6%	96.4%	96.1%	99.3%	98.0%	100.0%
成果指標	就学前の集団生活をとおして社会性の基礎が培われていると感じる児童の割合 (小学校1年生)	策定時 (H27)	指標結果					目標	
			H29	H30	H31	R2	R3	R2	R7
		87.2%	85.5%	79.0%	86.5%	85.2%	80.2%	89.0%	92.0%

#### （3）目標Ⅰの総合評価

- 「就学前教育プログラム」を改訂し、理論編・実践編に分ける等内容を充実させた。関係保育園・幼稚園・小学校の教職員が一堂に会して公開保育・授業参観や協議会を実施し意見交換を行う等教育連携を図った。
- 策定した「保育の質ガイドライン」をもとに、研修を多数実施するほか、概要版リーフレットを作成して子育て家庭への普及啓発を行った。
- 子育て応援メールや、日々の子育てに活かせる運動遊び等のWEB動画を配信するなど、家庭の教育力向上へ向けた支援を行った。
- 保育ソーシャルワーカーを配置し、発達に課題のある園児への対応や養育相談を行い各保育施設への支援を進めた。

#### （4）主な外部評価意見

- 小1プロブレム等の課題への対応のため、幼児期における「保育の質ガイドライン」を踏まえた研修や実践演習が行われており、引き続き、「保育の質ガイドライン」が有効だということを広めてほしい。また、保育現場のフィードバックを受けながら、「保育の質のガイドライン」の内容を高めていくことが重要である。

○特別な配慮や支援が必要な子どもと、保護者をどうサポートするかが、幼少期においては大事である。保育ソーシャルワーカーだけに任せるのではなく、区あるいは教育委員会としても、様々なところと連携しながら、きめ細かい対応ができるかどうか的大事である。

(5) 今後の取組

- 「就学前教育プログラム」の積極的な活用、保育園・幼稚園と小学校との教育連携の推進
- 新型コロナウイルス感染症の影響、家庭や生活課題の多様化等を踏まえた育児支援の実施
- 早期からの保護者への特別支援教育に関する情報提供など理解促進、就学相談体制の充実、関連部署との連携

## 【目標Ⅱ】子どもたち一人ひとりが意欲的に学び、社会で生き抜くための確かな学力を身に付け、個性や可能性を伸ばしている

### (1) 現行ビジョンにおける取組の柱

- 確かな学力の定着
- 理数教育の充実
- 外国語活動・英語教育の充実
- ICTを活用した学習指導の推進
- 小中連携教育の推進
- 教員の授業力向上
- 特別支援教育の理解促進
- 発達障害教育の推進
- 就学相談・発達段階に応じた支援体制の充実

### (2) 成果指標

成果指標	児童・生徒の学力調査の結果 (全86項目のうち、7割以上の児童・生徒が目標値を達成した項目の割合)	策定時 (H27)	指標結果					目標	
			H29	H30	R1	R2	R3	R2	R7
		48.8%	62.8%	66.3%	55.8%	72.1%	81.8%	70.0%	80.0%
成果指標	「学校は特別支援教育や発達障害等に関して保護者への説明を行っている」と考える保護者の割合	策定時 (H27)	指標結果					目標	
			H29	H30	R1	R2	R3	R2	R7
		小学校	小	小	小	小	小		
		65.4%	59.5%	59.6%	48.4%	50.6%	46.8%	80.0%	90.0%
中学校	中	中	中	中	中				
50.4%	53.9%	52.6%	48.6%	48.6%	52.6%				

### (3) 目標Ⅱの総合評価

- 中野区学力にかかわる調査において、学力調査項目（全86項目、令和3年度は44項目）のうち、7割以上の児童・生徒が目標値を達成した項目の割合は、中野区教育ビジョン（第3次）で掲げた成果目標である80.0%を上回る81.8%となった。令和3・4年度に新学習指導要領に対応した調査へ移行しており、今後は新しい学力観による評価が必要である。
- 学力向上検討委員会を設置し学力に関する課題や手だて、15年間を見通した系統的な指導について、保幼小中の代表者が協働して検討し、中間報告書をまとめ、各校へ周知した。
- 改定した特別支援教育のリーフレットを配布する他、すこやか福祉センター、区立療育センター、幼稚園・保育園等の就学前施設と連携した就学相談説明会を開催する等、早期から保護者に情報提供を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で学校等での十分な説明の機会が減少したため、指標の結果は低く、目標値には達しなかった。

### (4) 主な外部評価意見

- 目標にある子どもたち一人ひとりが意欲的に学び、社会で生き抜くための確かな学力を身に付けるために根本となるのは、生涯にわたる学びに向かう力を育てていくことや、個々の特

性に配慮しながら、児童・生徒が自ら学習の進め方を改善していくことができるよう指導・支援していくことが重要である。

○小学生科学展・中学校生徒理科研究発表会は、他校の子どもたちと切磋琢磨する等、子どもにとって良い機会であり、引き続き、多くの人がいろいろなところで目にするような機会を作っていただきたい。

○発達に課題のある児童・生徒に対して、切れ目のない支援が必要である。就学支援シートの活用について、学校、保護者、専門機関の協力を得ながら進めていくことが大事である。

#### (5) 今後の取組

○学力の定着（一人1台端末の効果的な活用、習熟度別少人数指導、小学校高学年の教科担任制、読書活動の充実、指導の個別化や学習の個性化）

○教員の指導力向上（マイスター研修制度の活用、教員一人ひとりの授業改善の支援）

○障害や特性に応じた指導・支援の充実（専門家が参画した判定会議の運営、「学校生活支援シート」の有効活用への理解促進）

## 【目標Ⅲ】自他の生命や人権を尊重する教育が行われ、さまざまな体験活動を通じて、子どもたちの豊かな人間性・社会性が育っている

### (1) 現行ビジョンにおける取組の柱

- 豊かな心を育む教育の充実
- 国際理解教育の推進
- いじめ・不登校対策の強化

### (2) 成果指標

成果指標	策定時 (H27)	指標結果					目標	
		H29	H30	R1	R2	R3	R2	R7
「自分には、よいところがある」と答えた児童・生徒の割合	小学校	小	小	小	小	小	小	小
	73.2%	78.4%	86.2%	77.9%	70.9%	74.2%	80.0%	90.0%
	中学校	中	中	中	中	中	中	中
	66.1%	67.3%	78.4%	71.5%	74.4%	76.4%	70.0%	80.0%
	小学校	小	小	小	小	小	小	小
	49.9%	48.3%	56.8%	57.3%	54.5%	50.8%	65.0%	80.0%
「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と答えた児童・生徒の割合	中学校	中	中	中	中	中	中	中
	38.9%	37.7%	41.6%	42.4%	49.0%	47.7%	55.0%	70.0%
不登校児童・生徒の出現率（不登校児童・生徒の全児童・全生徒に占める割合）	小学校	小	小	小	小	小	小	小
	-	0.44%	0.60%	0.86%	1.26%	1.61%	-	-
	中学校	中	中	中	中	中	中	中
	-	3.58%	4.28%	5.17%	5.87%	6.56%	-	-

### (3) 目標Ⅲの総合評価

- 生活指導の課題を見ると、人間関係に課題があるケースが増え、児童・生徒の各種意識調査における自己肯定感や自己有用感に関わる数値が7割程度となっている。
- 不登校傾向の児童・生徒に対する教育相談室での相談、フリーステップルームや北部・中部・南部の教育支援室分室での支援、学校や家庭を訪問しての巡回支援、SSWの支援など区の教育相談体制の基本的な環境を整え、多様なニーズに対応している。
- 各園・校が新しい生活様式における体験活動のあり方を模索し、実施方法を工夫して行うことができた。

### (4) 主な外部評価意見

- いじめの発見は、学校の教員が子どもたちの変化にもよく目を向けており、一番実態を把握しやすく、それが成果につながっている。教育相談室と学校との連携が重要であり、教育相談室が「学校で言いづらいことも話せる場所」であることを広く保護者へ周知することが重要である。
- 様々な体験活動を通し、多面的・多角的に物事を見る見方を、子どもたちに身につけてほしい。また、生命や人権が尊重されるべきであることを実感できる教育が重要である。

### (5) 今後の取組

- いじめの防止等に向けた体制の整備（いじめ防止等対策推進条例に基づく取組の推進）
- いじめや不登校のない学校づくりの推進（学校いじめ対策委員会や不登校担当教員の活動充実等）
- 関係機関（養護教諭、SC、SSW、教育相談室・支援室、医療機関等）につながっていない不登校傾向の児童・生徒への支援
- みらいステップなかのとの相談体制の連携強化と継続した相談支援体制の推進

## 【目標Ⅳ】子どもたちは健康の大切さを理解し、心身ともにたくましく育っている

### (1) 現行ビジョンにおける取組の柱

- 健康の保持増進
- 体力・運動意欲の向上

### (2) 成果指標

成果指標	生活習慣病健診結果における指導を要さない生徒の割合(中1)	策定時(H27)	指標結果					目標	
		H29	H30	R1	R2	R3	R2	R7	
		77.0%	76.3%	80.2%	68.7%	57.8%	56.0%	90.0%	100.0%
成果指標	体力テストで目標(中野スタンダード)を7割以上の児童・生徒が達成した種目数(小6、中3)	策定時(H27)	指標結果					目標	
		H29	H30	R1	R2	R3	R2	R7	
		小学校6年	小6	小6	小6	小6	小6	小6	小6
		8/16	12/16	11/16	9/16	10/16	11/16	12/16	16/16
中学校3年	中3	中3	中3	中3	中3	中3	中3		
11/18	14/18	12/18	13/18	11/18	13/18	15/18	18/18		

### (3) 目標Ⅳの総合評価

- 生活習慣病健診後、指導を要する生徒への適切な指導や医療機関への受診勧奨を行い、生活習慣の維持改善を図ったことにより、平成30年度には成果指標である指導を要さない生徒が約8割となった。しかし、新型コロナウイルス感染症のまん延が進んで以降、その割合は急下降し、令和3年にはおよそ半数の生徒が指導を要することとなった。
- 令和2年度に区立小学校で発生した学校給食における食中毒事故を受け、検討会にて初動対応目安を定め全校へ周知するとともに、必要な給食厨房備品を購入した。また、衛生管理徹底のため、教育委員会の栄養士による巡回指導を全校で実施した。
- 全区立保育園で「運動遊びプログラム」が定着し、小学校の体力向上プログラムにもつながった。また、体力テストの課題種目を明らかにし、あらゆる時間を活用して体力向上につながる活動に取り組んだ。これらを受け、成果指標である体力テストの種目の7割が「中野スタンダード7割以上」を達成したが、目標数値には届かなかった。

### (4) 主な外部評価意見

- 新型コロナウイルス感染症の影響がある中における生き方や行動の仕方に対して、正しい知識を持って正しく行動する子どもを育てることが重要である。
- 学校給食のアレルギー対応については、たくさんの子どもたちに対してきめ細かく対応しており、引き続き、学校内でよく理解しておくことが大事である。命に関わることもあるという緊張感を忘れてはいけない。
- 運動遊びプログラムが定着し、小学校体力向上プログラムにつながっていることや、体力テストを通して体力向上につながる活動に取り組んでおり、さらに取組を進め、運動習慣を身につけてほしい。

(5) 今後の取組

- 生活習慣病健診への理解、関係機関と連携した啓発
- 給食室の施設整備の推進
- 給食アレルギー対応検討会の立ち上げ及びアレルギー対応の厳格化
- 各中学校区における体力や健康維持の取組の推進

## 【目標V】保幼小中の連携や家庭・地域との連携が進み、子どもたちは生き生きと学んでいる

### (1) 現行ビジョンにおける取組の柱

- 保幼小中連携教育の推進
- 家庭・地域と連携した教育
- 子どもの安全対策の推進
- 開かれた学校経営

### (2) 成果指標

成果指標	策定時 (H27)	指標結果					目標	
		H29	H30	R1	R2	R3	R2	R7
「子どもが学校生活を楽しく過ごしている」と感じている保護者（小学生）の割合	93.8%	94.8%	92.4%	92.0%	91.2%	92.2%	96.0%	100.0%
「子どもが充実した学校生活を送っている」と感じている保護者（中学生）の割合	90.9%	89.8%	88.5%	89.2%	86.7%	87.8%	95.0%	100.0%
学校は、保護者や地域の意見や願望を受け止め、学校改善に生かそうとしている」と考える保護者の割合	75.1%	75.3%	74.3%	65.2%	65.3%	68.0%	80.0%	90.0%
「学校は、保幼小中連携教育のねらいや様子を、保護者に分かりやすく伝えている」と考える	65.5%	66.1%	63.4%	56.3%	52.6%	50.0%	75.0%	—

### (3) 目標Vの総合評価

- 小中連携教育では、各中学校区での取組が周知され、成果が上がったものは、他の校区でも取り入れられた。
- 幼児・児童・生徒や教員にとっては、アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム、オープンキャンパス、乗り入れ指導等、各中学校区での合同行事等の取組が定着し、保幼小中連携教育を推進してきた効果が表れていると言える。
- 新型コロナウイルス感染症の状況においても、保護者が分散して参観したり、オンラインで参観したりするなど学校の様子を知る機会を設けることができた。

### (4) 主な外部評価意見

- 学校運営協議会等、全国的な名称・制度に単に後追いするのではなく、中野区がこれまで培ってきた学校と地域の連携をうまく生かして、中野らしいものを新しく作っていくのではないかと。
- 「学校は、保護者や地域の意見等を、学校改善に生かそうとしている」保護者評価が低いことについて、保護者や地域とのコミュニケーションを増やして改善する必要がある。

### (5) 今後の取組

- 保幼小中連携教育の充実（15年間を見通した学びの連続性（カリキュラム連携等）の推進）
- 地域と学校の連携・協働による地域学校協働活動の推進、学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の導入に向けた取組の推進
- 部活動の地域移行へ向けた検討
- 登下校時の通学路の見守り活動等安全対策の強化



## 【目標VI】 地域における学習やスポーツが活発に行われ、活動をととしての社会参加が進んでいる

### (1) 現行ビジョンにおける取組の柱

- 区民の生涯学習活動への支援
- スポーツ・健康づくりの推進

### (2) 成果指標

成果指標	なかの生涯学習大学卒業後に地域活動に参加したことがある人の割合	策定時 (H27)	指標結果					目標	
			H29	H30	H31	R2	R3	R2	R7
		72.1%	68.9%	75.9%	75.0%	—	—	85.0%	90.0%

※成果をはかるためのアンケートについては、令和2年度及び3年度の実施は見送ったことから実績は「-」としている。

### (3) 目標VIの総合評価

- 令和元年度まで増加傾向が続いたものの、近年は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により多くの地域活動が休止・縮小している状況が続いたことから生涯学習大学の卒業生を地域活動につなげることが難しい局面にあった。

### (4) 主な外部評価意見

- 生涯にわたって学ぶことで、学ぶ楽しさ、学びによる人との繋がりや地域の魅力を再発見するなど、自分自身の人生がより豊かになると思う。生涯学習という観点で、今行っている活動を含め様々な活動や取組をさらに充実させてほしい。
- 生涯学習で中野区の歴史を学んだ方と学校が地域学習等で連携し、中野の持っている様々な歴史的文化的な財産を認識することにより、中野区の魅力の発見につながり、中野区を愛する好きになるきっかけとなるのではないか。

### (5) 今後の取組

- 生涯学習の機会の充実（多様な生涯学習機会の提供、ウェブサイト等を通じた情報発信の強化、）
- なかの生涯学習大学の入学促進及び魅力あるプログラムづくり

**【目標Ⅶ】子どもから高齢者まですべての区民が文化や芸術に親しみ、生活の質を高め  
ている**

(1) 現行ビジョンにおける取組の柱

- 文化芸術活動の支援
- 歴史文化・伝統文化の保護、継承
- 図書館機能の充実
- だれもが利用しやすい図書館の整備

(2) 成果指標

成果指標	策定時 (H27)	指標結果					目標	
		H29	H30	R1	R2	R3	R2	R7
文化施設の利用者数	1,332,845人	1,233,847人	1,252,943人	1,235,249人	218,724人	435,524人	1,370,000人	1,400,000人
歴史民俗資料館年間入館者数	35,363人	35,114人	35,404人	18,018人	22,776人	25,962人	38,000人	40,000人
図書館は学びや課題解決に役立っていると感じている利用者の割合	—	92.0%	80.5%	80.3%	84.6%	78.8%	90.0%	100.0%

(3) 目標Ⅶの総合評価

- 区内の複数の歴史的遺構が文化財に指定された。
- 区立図書館の事業等の改善や新規開設により平成29年度と比べ令和3年度の登録者は4,000人(7%)増加、図書の個人貸出数も40万冊(18%)増加、児童に関しても登録者数が1200人(13%)、貸出数も11万冊(25%)増加した。

(4) 主な外部評価意見

- 中野区に縁やゆかりのある人物や文化財などをさらに掘り起こし、区民のみならず多くの方に知ってもらえるよう広報することで、教育的な価値、文化的な価値としての活用が進むのではないかと。また、自分の地元で縁のある人物や文化財を知ることによって、親しみやすくなるのと同時に誇りも持てるようになるのではないかと。
- 中野東図書館について、利用目的や利用対象者に応じたスペース配置の印象が良かった。各館でも、中野東図書館と同様に利用者の特性等に応じて整備を行ったらどうか。

(5) 今後の取組

- 区の文化財の修復・移築に向けた設計・工事や保存活用計画の策定
- 図書サービスの機能の強化
- 図書館の今後のあり方の検討
- 子どもや乳幼児親子の読書活動の推進